

目で起こった雷事故

七尾事務所保安課 田下 直伊

暑さの厳しい8月の初旬、激しい雷雨の夜9時過ぎに、お客さまから「すごい雷が鳴ってお店が停電した」と故障の電話が入り、直ちに現地へ向かいました。車で向かう途中、ワイパーを最速にしても、前方が見えなくなるほどの激しい雷雨でした。

やっとの思いで到着して見てみると、お店も事務所も真っ暗で、店長さんはじめ従業員の方々が不安な表情で待っておられました。

店長さんに停電時の状況をお聞きし、すぐに停電の原因調査に入りました。最初に向かったのは構内第一柱、高圧気中開閉器（PAS）の開閉状態を確認することから始めました。次に高圧地絡継電器（GR）の動作の有無を確認。その結果、開閉器は入っており、継電器も動作はしていませんでした。

受電設備を点検すると、受電用の主負荷開閉器（LBS）に組み込まれた電力ヒューズ（PF）が2本破損し、ヒューズ筒が割れ、中の消弧材が飛び出していました。また、電灯トランス用のカットアウトスイッチ（ヒューズ入り）は本体が破損していました。

停電復旧のため、高圧気中開閉器（PAS）を開放し、破損した電力ヒューズ3本すべて取り替え、破損したカットアウトスイッチを取り外し、応急措置をするべく現在不使用の受電設備（キュービクル）の部品を取り外そうと振り向いたその瞬間、目の前にすさまじい閃光と轟音が鳴り響きました。

構内の電柱に落雷したのです。一瞬の出来事だったと思いますが、かなり長い時間のように感じられました。落雷したあと、電柱の上にある高圧気中開閉器（PAS）の周りがポーッと光り、「ボン」と音をたて、開閉器から煙がモクモクと立ち上がったのです。

お店の周辺の建物を見ると、明かりが消え、真っ暗になっていました。とっさに「波及事故になった」と思い、すぐに電力会社へ電話し、対応をお願いしました。

しばらくして電力会社の社員が到着。現状を確認後、落雷で破損した高圧気中開閉器（PAS）の電源側の電線を切断し、配電線を復旧され、お店の周辺の建物に次々と電気が灯りました。

その後、電気工事会社と復旧作業に取り掛かりました。電力会社と工事会社の協力のおかげで、夜が明けるまでに復旧することが出来ました。

私は、協会に三十数年勤めてまいりましたが、目の前で雷が落ち波及事故が起きるとは思いもよりませんでした。

今後は、お客さまの電気設備の安全・安心をお届けする上で、今回の経験を役立てられたらと思っています。また、協会職員には今回の事故対応を語り継ぐことにより、安全作業を伝えていけるものと思っています。